問一　傍線部㋐㋑㋒の語句の本文における意味として最も適当なものを選択肢から一つずつ選べ。（各一点）

㋐さらに　一、まだ　二、全く　三、こちらも　四、誰も　五、ますます

「さらに」…重要単語です
下に打消しの語を伴って、「全く～（ない）」

【答え　二】

㋑当時　一、その時　二、いつも　三、いつでも　四、現在　五、当日

「当時」…重要単語です
①現在　②そのとき、そのころ
一、その時　四、現在　ともに意味を満たしているが、ここでは四がふさわしい
模試で、この単語の意味を問われたら、「現在」と答えるのがセオリー
ただし、実際は両方ある。今回の本文でも、両方の意味で使われている。しかし、問題となるのは、「現在」の訳になる方だけである。

【答え　四】

㋒ふつと　一、完全に　二、少し　三、気付くと　四、さりげなく　五、思わず

「ふつと」「ふつに」
①完全に　②下に打消しの語を伴って「全然～ない」
③下に打消しの語を伴って「急に～ない」

【答え　一】

問二　傍線部①②③④の助動詞の本文の意味として最も適当なものを選択肢から一つずつ選べ。（各一点）

一　受身　二　可能　三　自発　四　尊敬　五　使役　六　推量　七　意志

①御手跡をあらそはせ給ひけり

使役・尊敬の「す」
尊敬の「す」は、単独で出現しない→必ず他の尊敬表現が併設する
ただし、他の尊敬表現が併設していても、使役となることはありえる→文脈判断を！
「ご筆跡を争いになっておられた」→使役はありえない

【答え　四】

②大師よくよくいはせまゐらせて後

使役・尊敬の「す」

「す」の単独出現

「まゐらせ」は敬語だが謙譲語。よって併設にはならず単独と判断→使役

訳がちょっと難しい！

「大師は（天皇に）よく賛辞を言わせて後」

【答え　五】

③記せられたり

受身・可能・自発・尊敬の「る」「らる」

文脈判断が必要

受け身か尊敬か

「その年その日、青龍寺においてこれを書す、沙門空海」と記せられたり

『記されていた』と解釈できる→受け身

【答え　一】

④誠に我にはまさられたりけり

受身・可能・自発・尊敬の「る」「らる」

文脈判断…

「本当に私よりも優れていらっしゃる」と訳すのが妥当→尊敬

【答え　四】

問三　傍線部あ、い、うの敬語について

一、敬語の種類を言え。また二、誰から　三、誰への敬意を示すか、選択肢から一つずつ選べ。

ア、嵯峨天皇　イ、弘法大師　ウ、筆者　エ、読者　（各　完答二点）

尊敬語　誰から
　　地の文…筆者
　　会話文…会話主
　誰へ　動作主　↑動詞の主語は誰だ？と考えると解きやすい
謙譲語　誰から
　　地の文…筆者
　　会話文…会話主
　誰へ　動作の受け手　↑動作の受け手は誰だ？と考えると解きやすい

(1)或る時、御手本をあまた取り出させ給ひて、大師に見せまゐらせられけり

（ある時、天皇が、筆跡のお手本をたくさん取り出しなさって、大師に見せ申し上げなさった。）

（一）敬語の種類は「謙譲語」
（二）誰から…地の文→筆者
（三）誰へ…謙譲語だから、「動作の受け手」→見せられたのは誰？…大師

【答え　一、謙譲語　二、ウ　三、イ】

(2)「これは空海がつかうまつりて候ふものを」と奏せさせ給ひたりければ、

（「これは空海（＝私）が書き申し上げたものでございますが」と申し上げなさったところ、）

「奏す」は謙譲語確定。しかも相手は「天皇・上皇・法皇」が確定する。

（一）敬語の種類は「謙譲語」
（二）誰から…地の文→筆者
（三）誰へ…謙譲語だから、「動作の受け手」→「奏す」だから、相手は？…天皇

【答え　一、謙譲語　二、ウ　三、ア】

(3)「これは空海がつかうまつりて候ふものを」と奏せさせ給ひたりければ、

（「これは空海（＝私）が書き申し上げたものでございますが」と申し上げなさったところ、）

二重敬語だ！注意が必要！

（一）敬語の種類は「尊敬語」
（二）誰から…地の文→筆者
（三）誰へ…尊敬だから、「動作主」→申し上げたのは誰？…弘法大師

【答え　一、尊敬語　二、ウ　三、イ】

問四　傍線部一が示す内容を答えよ。（四点）

「いかでかさる事あらん。」

いかでか…①疑問②反語③何とかして…ここは反語が適切！

さる事…「さ、ある事」→そのようである事

あらん…動詞「あり」＋推量助動詞「む」の連体形

「どうしてそのようなことがあろうか、いやありえない」

では、そのようなこと、とは？

ここまでの話をまとめてみよう

天皇は、筆跡のお手本の中から、特に優れた一つを持って来てライバルの空海に見せた。

天皇は「これは素晴らしい作品だ。唐の人の作品だが、作者はわからない」と言った。

そこで空海は、「その作品は私が書いたものです」と告げた。

天皇は大いに不審に思い、「そんなことはありえない」と述べた。

ここからわかることを答えよう。そんなこと、とは？

【答え　天皇が秘蔵している筆跡のお手本の中に、特に優れた一つがあるのだが、それが空海の書いた作品であるということ】

採点基準…「その作品が空海のものである」が書けていて一点。

その作品（筆跡）の詳しい説明（天皇が秘蔵している、特に優れた一巻、など）が書けていて二点。

意味の通る文章になっていること、短かすぎないこと、「～こと」と文末を閉めている、これらがすべてできていて一点。

問五　傍線部二のように「あらそひ」がなくなった理由を六十字以内で答えよ。（七点）

文字数制限のある記述式問題は、適当に書き出すと、時間ばかりがかかって、部分点をたくさん引かれた悲しい点数になりがち。要点をまとめて、その中から必要な文字をピックアップして作るようにしよう

ここまでのまとめ

天皇は、筆跡のお手本の中の珠玉な一品を空海に見せた。

空海は「これは私の作品です」と言った。

天皇は「それはありえない」と疑った。

空海「お疑いはごもっともです。では、少し離して見てみてください。私のサインがあるはずです」と答えた。

サインを見た天皇は、空海の作品であることを認めたが、空海の現在の筆跡と違うことを指摘、その理由を尋ねた。

空海は「中国はでかい国。日本は小さな国。その国によって筆勢を変えているからです」と答えた。

天皇はその答えを聞いて愕然とし、その後、両者の争いはなくなった。

では、これを上手にまとめてみよう。

また、「争いがなくなった理由」だから、ただ訳をまとめるのでは足りない。

最後に、天皇が「負けた…完全に完敗だ…」と思ったことによって争いがなくなった、と言うニュアンスを付け加えることで完全解答になる！

【答え　天皇は、空海との技術の違いだけではなく、国によって筆勢を変える空海の心配りにも触れたことで愕然とし、自分との実力の差を痛感したから。（六十七字）】

採点基準　…天皇が、空海との実力差を痛感したから、ということが書けていて三点。

空海との、「筆跡の腕の違い」が書けていて一点。

「空海が国によって筆勢を変えている」が書けていて一点。

まとまった意味の通る文章になっていて一点。

「～から」と理由を示す書き方ができていて一点。

減点対象…七十文字を超えた回答は、一文字につき一点減点。

六十文字に満たない回答は、三点減点。